

(様式1)

Ⅲ 自 己 評 価 表

愛媛県立みなら特別支援学校(松山城北分校)
学校番号(51)

教育方針	1 生徒一人一人の教育的ニーズに応じて、育成を目指す資質・能力を明確にし、調和的な発達を支える指導・支援の充実を図る。 2 体験活動を重視し、生徒が学ぶ意義を実感しながら、主体的に学習活動に取り組めるよう授業の工夫・改善を図る。 3 生徒にとって安全・安心な学校生活を保障し、自立的に生活する力やよりよい人間関係を築く力を育てる。	重点目標	『一人ひとり見つけ育てる特別支援教育の充実』 多様な人々と協働しながら、将来にわたり主体的に生きる力を育む。(高等部)
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
豊かな人間性の育成	分かる授業の実践と教材・教具の工夫	一人ひとりの教育的ニーズに応じた分かる授業の実践に向け、ICT機器等を効果的に活用するとともに専門性の向上を図るため、相互授業参観を年3回以上実施する。 相互授業参観 A:3回以上 B:2回 C:1回 E:0回	B	授業の中で日常的にICT機器を活用している。専門性の向上を図るために授業参観だけでなく、研修や教員同士の情報交換により新しい知識や効果的な使い方を学んだ。	ICTの利用だけでなく、教材研究や発問の仕方などを工夫し授業力を向上させ、生徒の満足度を高めたい。ティームティーチングの良さを生かし、互いにアドバイスをを行う。
	基本的生活習慣の確立	家庭と連携し生徒が基本的生活習慣を身に付け、年間を通して出席率85%以上を目指す。 出席率 A:85%以上 B:84~75% C:74~60% D:59~50% E:50%未満	B	2月までの平均出席率は79.7%である。長期欠席(30日以上欠席)の生徒が昨年度より増え、1学期より2学期の方が1日の欠席人数が増えた。	遅刻や欠席が続くときは理由を把握し、生徒の状態や個別のニーズに応じたきめ細かく素早い対応を行う。
	学校生活の充実	生徒が主体的に活動に取り組む生徒の笑顔を引き出す学校行事等を創造し、学校生活の充実を図り学校行事満足度85%以上を目指す。 学校行事満足度 A:85%以上 B:84~75% C:74~60% D:59~50% E:50%未満	A	運動会や分校祭、修学旅行等、各種学校行事の生徒の満足度は高かった。	学校行事における満足度は高い一方、授業に関する満足度が低い。児童生徒が楽しく学べる授業を展開していきたい。
	家庭・地域との連携	家庭・地域・関係機関等との連携・協働を推進するため、地域との交流活動を年15回以上実施する。 地域交流 A:15回以上 B:14~10回 C:9~6回 D:5~3回 E:3回未満	A	高齢者福祉施設との交流や小規模多機能ホームとの交流、松山西中等教育学校との交流等地域や関連機関との連携・協働を力強く推進できた。	新校としてスタートするため、同水準での交流活動が可能かどうか分からないが、生徒たちの成長に資する交流活動が行えるようにしたい。
魅力ある学校づくり	夢の実現につながる進路指導の充実	望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、生徒の能力・適性・希望等に応じた進路指導を実践し、進路決定率100%を目指す。 進路決定率 A:100% B:99~90% C:89~70% D:69~50% E:50%未満	A	キャリアガイド教室に卒業生を招いて話し合うことで卒業後の生活をイメージしたり、実習を通して自分の適性に気付いたりした。卒業生全員が希望の進路先に進む予定である。	本校化に伴い、進路先が多様化することが予測される。就労継続支援B型事業所や生活介護事業所の情報収集を行う必要がある。
	開かれた学校づくり	家庭・地域・関係機関等へ生徒の活動を情報発信するため、学校HPによる情報発信を週3回以上更新する。 情報発信 A:3回以上 B:2回 C:1回 E:0回	B	新校建築の進捗状況を含め、週3回以上を目標に教員への割り振りなどを行い、情報発信を行った。業務の負担にならないよう、今後も情報発信の在り方を考えていきたい。□	生徒や保護者の要望を踏まえた上で、教員の業務負担等を考慮し、適切な情報発信を心掛ける。
	個別的教育支援計画の活用	「個別的教育支援計画」を懇談や引継ぎ時だけでなく、日々の支援の中でも支援方法を見直ししながら活用する。また、必要に応じてケース会議を行い、保護者(本人)・関係機関・学校の連携の機会を持つ。	B	支援が必要な事例があったときや支援の必要性が予測できる場面で学年会やケース会議を行うとともに、保護者や関係機関とも連絡を取り合った。	保護者や関係機関との連携で個別的教育支援計画を有効に活用しながらケース会議を適宜開催し、必要に応じて生徒への支援方法を情報共有する。
	センター的機能の充実	校内外で教職員のニーズに合う研修会の実施や紹介を行い、センター的機能の役割を果たす。特別支援教育コーディネーターを中心に地域の学校等のニーズに応じた教育相談など地域支援を行う。 教育相談の実施 A:10回以上 B:9~8回 C:7~6回 D:5~3回 E:3回未満	A	教職員のニーズに合わせた校内研修や外部講師を招き研修を行い、職員の専門性の向上やセンター的機能の充実を図った。新校開設に伴い、地域及び遠隔地の学校からの教育相談が増え、教務課と協力して対応した。	ニーズに応じた教職員対象の研修を行い、専門性を高める。生徒や保護者、また地域の学校等のニーズに対応する教育相談や学校参観、地域支援を行うために、コーディネーターの数の確保が課題である。
	働きがいと働きやすさのバランスのとれた職場環境の整備	業務の効率化・平準化に努めるとともに、教職員の連携を深め働きがいと働きやすさのバランスの取れた職場環境を整え時間外勤務の縮減に努め、生徒と向き合う時間を確保する。 時間外勤務時間月45時間以上の教職員数 A:0名 B:1~3名 C:4~6名 D:7~9名 E:10名以上	C	リフレッシュデーやノー残業デーを設けたり、職員朝礼の原則廃止などにより、ゆとりを創出した。令和8年4月の本校化に向け、担当者の業務が増え、時間外勤務時間月45時間以上を超える教職員が増えた。	本校化に伴い教職員数が増え学校運営の方法も変更が予想される。教職員の働き方改革の意識を高める呼び掛けを行いたい。
安全・安心な教育環境の整備	安全教育の充実	生徒及び教職員の防災意識の向上を図るため、事前予告をしない避難訓練を含め年3回以上の防災避難訓練を実施する。 防災避難訓練 A:3回以上 B:2回 C:1回 E:0回 自他の生命を尊重する態度を身に付けるとともに、交通安全意識の高揚を図り、交通事故ゼロを目指す。 交通事故発生件数 A:0件 B:1件 C:2~3件 D:4~5件 E:6件以上	A	聾学校と連携し、教職員対象の避難訓練も含め、計4回実施した。3学期は告知なし訓練とし、通報訓練も合わせて実施した。	本校化に伴い、小学部や中学部も新設されるため、有事の際の避難場所や避難経路等の確保及び確認をしておく。
		生徒が安全・安心に学校生活を送るため、いじめ・ネットトラブル等の問題行動の未然防止に努める。 問題行動 A:0件 B:1件 C:2~3件 D:4~5件 E:6件以上	A	今年度は幸いなことに認知した交通事故はなかった。新年度より始まる青切符制度について、生徒課長講話や警察官による講話を行った。	交通安全教室を実施するなど引き続き注意喚起に努め、交通事故の減少につなげる。生徒の実態に応じた通学方法を保護者とともに考える。
	安全な教育環境の整備	保護者と合同での安全点検を年3回以上実施し、安全な教育環境を整備する。 合同安全点検 A:3回以上 B:2回 C:1回 E:0回	A	いじめ事業やSNSに係る問題行動を認知した。第三者機関と連携し支援方法を模索したり、警察官による講演や校内研修会を行ったりした。	スマートフォンを持つ上で大切にすべき情報モラルを身に付けることができるよう、関係機関と連携して支援したり、家庭との連携・協力を進めたりする。
				学期に1回、PTA役員会の際に校内の安全点検を行った。外部の目で見えていただく有効性を感じている。	令和8年4月の本校化に伴い新校舎が完成する。更なる安全対策を講じる。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。